

# 第1学年国語科学習指導案

日 時 平成19年10月26日(金) 5校時  
学 級 盛岡市立城西中学校 1年2組  
(男子19名 女子19名 計38名)  
指導者 浅沼 英子

## 1 単元名 古典との出会い

教材 蓬萊の玉の枝 「竹取物語」から (光村図書 国語1)

## 2 単元について

### (1) 単元について

古典の指導については、学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」の中に「古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」とあり、中学生に古典への関心を持たせることが目的の一つとして示されている。本単元は、教材「いろは歌」、「蓬萊の玉の枝 『竹取物語』から」、「今に生きる言葉」から成り、「古典の文章に出会い、昔の人の物の見方や考え方に触れ、現代とのつながりを考える。」ことを目標としている。時代を超え人々に様々な形で読み継がれてきた文章は、どれも親しみやすく理解しやすい内容となっており、初めて本格的に古典の言葉や文章と触れることになる1年生にとっては、古典がどのようなものかを知り、文語のリズムに慣れるのに適している。また、現代とは違う言葉や生活の様子などを実感しながらも、今も昔も変わらない人間の生き方を見いだすことができる単元である。何よりも古典は難しいものという意識を持たせることなく、古典は楽しいものだと感じさせたい。

### (2) 教材について

本教材は、物語の祖ともよばれる「竹取物語」を出典とするもので、古文(現代語訳付)と現代文によるあらすじの部分が交互に繰り返されている。生徒たちは「かぐや姫」の物語としてよく知っており、内容はたいへん親しみやすい。原文は歯切れのよい文体なので、音読にも適しており、話の流れを理解しながら仮名遣いや文末の表現、古語の意味など古典学習の基礎を取り上げて学習できる古文への導入としては適切な教材である。

学習指導要領のC読むことの(1)のア「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。」言語事項(1)のア「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に注意すること。」と関連させて指導にあたるものである。

### (3) 生徒について

生徒たちのほとんどは、古典を昔話という形で読んだことはあるが、古典の原文を読むのは初めての学習となる。本学級の生徒は、授業では指示されたことには素直に取り組むが、自分の感想や考えを積極的に発表しようとする生徒は少ない。また、「野原はうたう」で朗読の学習もしているが、全体として声が小さく、音読することにも自信をもてないでいる生徒も多い。そのため、話の内容を理解したうえで、楽しく音読したりお互いに意見交流をしたりする場面を取り入れ、学習に向かわせたい。

### (4) 指導の構想

教材の特徴と本学級の実態を踏まえて、次のことを生かした授業展開にしたい。

#### 音読・朗読

3カ所に出てくる原文の部分では、現代語訳を手がかりに物語のおもしろさをとらえさせながら、たつぷりと音読・朗読練習をさせることで、原文の持つ響きやリズム感を味わわせたい。

#### 想像する

資料集などを活用し、物語の内容に興味を持たせ、イメージを広げさせることで、当時の人々の生活や登場人物たちの思いに入り込ませる。

#### 共に学び合う

隣同士や小集団での意見の交流をもちながら、お互いの意見や音読を聞きあい、自分の考えを深める場を指導過程の中に設ける。文章の展開から大きくはずれないようにしながら、古典はおもしろいものだと思わせることを目標に楽しく活動させたい。

以上のことから、本単元における生徒及び教師の役割について次のようにおさえる。

【生徒の役割】 恥ずかしがらず、しっかりと声を出して音読や朗読をする。

原文と現代文の違いを探す。  
 自分の考えをもち、発表する。  
 友人の意見を聞き、次の活動に生かす。  
**【教師の役割】** イメージを広げさせるような資料を準備する。  
 さまざまな音読の練習形態を工夫する。  
 指示や発問を簡潔に分かりやすく行う。  
 共に楽しく学び合う雰囲気を作る。

### 3 教材の目標

- (1) 古典に親しみをもち、学習を進めようとする。
- (2) 物語に表されている昔の人の心を読み取ることができる。
- (3) 繰り返し音読や朗読をすることで、古文のリズムに慣れ、その表現を味わうことができる。

### 4 教材の評価規準

- (1) 古文に対する興味や関心を深めながら学習を進めようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) さまざまな形態での音読や朗読で古文に慣れ親しみ、文章中の語句の意味をとらえて内容をつかみながら古文を読んでいる。 (読む能力)
- (3) 文章の内容を理解し、言葉の調子や間の取り方に注意して、正確に古文を読んでいる。 (言語に関する知識・理解・技能)

### 5 教材の指導計画 (5時間)

- 第1時 導入，全文通読。
- 第2時 冒頭部分の内容把握と音読練習。
- 第3時 「蓬萊の玉の枝」の部分の内容把握と音読練習。
- 第4時 最終場面の部分の内容把握と音読練習。
- 第5時 朗読，まとめ。(本時)

### 6 本時の指導

- (1) 目標  
 古文の文章理解をもとにして、内容が伝わるように朗読することができる。

#### (2) 本時における【生徒の役割】【教師の役割】

本時は、「現代語訳からくらしもち皇子の人物像を読み取り、古文を工夫して音読する」時間である。前時までは各場面の内容把握はさせているが、授業では原文の音読に力を入れてきている。「文章から読み取る」場面では、現代語訳に沿って、くらしもちの皇子の欲望やずるがしこさを改めてしっかりと読み取らせたい。そのため、生徒は「現代語訳にも注目し、読んでいく」ことを、教師は「生徒たちがしっかり読み取れるように、的確な指示・発問をする」ことを役割とおさえる。そうすることが「人物像や気持ちを考えて工夫して朗読する」ことにもつながる。「朗読を工夫する」場面では、教師は朗読してみせ、テンポよく授業を進めることが役割となり、生徒は自分の工夫が聞き手に伝わるように思い切って声を出すことが役割となる。また、導入場面での音読が学習全体の意欲付けになるように、生徒が元気よく声を出せるような雰囲気づくりを心がけたい。

#### (3) 具体的評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
国語への関心・意欲・態度	これまでの学習をもとにして積極的に暗唱したり、朗読に取り組んだりしている。	元気よく音読したり朗読を工夫したりしている。	現代語訳とは違う原文の言葉に気づかせたり、発声の仕方を指導したりする。
読む能力	語句の意味を的確につかみ、内容をとらえ、登場人物の状況や気持ちを考えて朗読している。	語句の意味を的確につかみ、話の内容をとらえながら読んでいる。	現代語訳で内容を確認させながら、言葉の区切り目を確認させる。
言語についての知識・理解・技能	間の取り方や言葉の調子に留意して、聞き手によく伝わるようにリズムよく朗読している。	文章理解をもとにして、聞き手に内容が伝わるように、音読や朗読をしている。	音読することを課題とし、どこでつまづいているかチェックさせる。

(4) 展 開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点(教師の指導・評価)
導入 5分	1 前時までの確認	冒頭部分を全員で音読する。	暗唱できる生徒には、暗唱させる。 元気よく声を出させる。
	2 学習課題	全員で声に出して確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     くらもちの皇子になりきって、朗読に挑戦しよう。                 </div>			
展 開  40分	3 「蓬萊の玉の枝」の部分の音読	意味を思い浮かべながら音読する。	大きな声で元気よく正確に音読させる。
	4 朗読の工夫	くらもちの皇子の気持ちや人物像を考える。 ・どうしてもかぐや姫と結婚したかった。 ・3年間もかけて準備をした。 ・欲が深くてずる賢い。 ・大嘘つきで、話すのがうまい。	くらもちの皇子の人物像や気持ちをプリントに書いているか。  小グループで意見の交流をさせる。
	5 相互評価	読み方を工夫し、朗読の練習をする。 ・もっともらしく ・得意げに ・自信たっぷりに  隣同士で聞き合い評価をする。  再び練習する。  再度、同じペアで聞き合い再評価する。  数名の発表を聞き合う。	どのように朗読するかプリントに書き込み、練習している。  朗読の工夫のポイントを提示する。  評価カードに記入させる。  友人のアドバイスを生かして練習しているか。  聞き手に内容が伝わるように、朗読しているか。 評価カードに記入させる。
終末 5分	6 まとめとふり返し	学習を通しての感想をまとめる。  学習をふり返る。	自己評価させる。